

# L.U.X.E. Webサイト企画書（改訂版）

UCHIYAMA SHORYU

LUXE

「—AIが紡ぐ、近未来のブランド—」

UCHIYAMA SHORYU

# 1. サイトタイトル / ブランド

L.U.X.E – AIが紡ぐ近未来のブランド』

- サイト上キャッチコピー :

「LUXEは次の時代の“当たり前”へ」 「そっと働くAIが、あなたの毎日を支える」といったメッセージで、  
“静かに寄り添うAI”と“未来の日常”を印象づける。

## 2. 制作目的

- 1、オリジナルブランド「L.U.X.E.」の世界観を、  
1ページ構成のブランドサイトとして表現する。
- 2、中核となるAI「AERIS」と、そこから広がるデバイス／都市体験を  
ストーリーとして理解できる構成にする。
- 3、デザイン・テキスト・UIのすべてで、  
「AIが当たり前になつた近未来の日常」をイメージさせる。
- 4、日本語 / 英語の切り替えに対応し、  
グローバル向けブランドサイトの体裁を持たせる。

### 3. コンセプト

テーマ：AI × 近未来都市 × 静かなラグジュアリー

- ・黒ベースの背景にネオンブルー系のハイライトを重ね、クールで静かな近未来ラグジュアリーを表現する。
- ・ガチャガチャしたUIではなく、“余白”を活かしたミニマルデザインで世界観を見せる。
- ・スクロールに合わせて要素がフェードインすることで、ショールームを歩いているような体験を演出する。
- ・AERISを中心に、ホーム／都市／モビリティ／インフラまでつながるストーリーを段階的に見せる。

## 4. ターゲットユーザー

- ・10～20代のテクノロジー好きな層
- ・AIやスマートデバイス、SF的世界観が好きなクリエイター志望の学生
- ・近未来の都市・ガジェットのコンセプトサイトを眺めるのが好きな人

ねらい：

単なる「作品紹介サイト」ではなく、  
「ブランドの設計書を覗き見ているような体験」を通じて、  
AIと都市デザインへの興味を喚起する。

# 5. サイト構成（1ページ構成）

ヘッダーのグローバルナビから各セクションへスクロールで遷移する。

## 5-1. グローバルナビ

- L.U.X.E. (ロゴ)
- Home
- About
- AERIS
- Platform
- Devices
- Company
- Contact
- 言語切り替え： JA / EN

## 6-1. Home (ヒーローセクション)

役割：ブランドの第一印象を決定する「表紙」部分。

- ・キャッチコピー
  - 次の時代の“当たり前”になるLUXEを印象づけるタイトル
  - サブコピーで「そっと働くAIが日常を支える」イメージを提示
- ・背景：近未来の都市やビル群を想起させるビジュアル
- ・ボタンやスクロール誘導で「About」へ導く

## 6-2. About

L.U.X.E.全体の概要・事業領域を紹介するセクション。

- ・ L.U.X.E.は、AI「AERIS」を核として、生活空間・移動・オンライン体験をひとつつながりの体験として設計するプラットフォーム。
- ・ ユーザーごとに割り当てられた専用クラウド上に人格とデータを保管し、どこからでも同じAERIS体験を呼び出せる。
- ・ 事業領域：AIデバイス、Webアプリケーション、インタラクティブ体験など。
- ・ 提供体制：コンサルティング～PoC～本番運用まで一気通貫で支援。
- ・ 技術基盤：Edge × Cloud構成、低遅延UI、安全なデータ同期 など。

※企画書上では、「L.U.X.E.とは何か」を1ページで説明できる要約として整理。

# 6-3. AERIS

L.U.X.E.の中核であるAIパートナー「AERIS」を紹介するセクション。

コンセプト：一人ひとりの生活リズム・習慣・好みを学習し、家・職場・移動中など、どのデバイスでも同じ人格で応答するAI。

重要ポイント：

## 1. ON-DEVICE LEARNING

- ・学習はできるだけ端末側で行い、必要な形に変換して専用クラウドに保存する。
- ・共用サーバーからは参照できない構成とする。

## 2. PERSONA SYNC

- ・暗号化された人格データを安全に同期し、どのデバイスからでも「ひとりのAERIS」が続いて応答する。

## 3. PERMISSION-FIRST

- ・新しい自動化・連携はユーザーの明示的な同意が必須。
- ・設定画面からワンタップで停止・削除が可能。

## 4. EXPLAINABLE

- ・AERISの提案・自動実行の「理由」や「元データ」を後から確認できる。
- ・ログを時系列で閲覧・削除できる仕組みを前提とする。

# 6-4. Platform

AERISを軸にしたプロダクト全体像・技術スタックを整理するセクション。

構成要素（4ブロック想定）：

## 1. Product Scope

- ・生活・住まい・都市をつなぐAIデバイスを扱う。
- ・ユーザー専用クラウドで人格とデータを管理し、  
L.U.X.E.運営側のサーバーから論理的に隔離した構成をとる。

## 2. Core Capabilities

- ・センサー連携、マルチモーダル認識
- ・許可ベースの自律アクション
- ・低遅延なインターフェース
- ・暗号化されたデータ同期 など

## 3. Use Cases

- ・Smart Home
- ・Retail / Office
- ・Mobility
- ・Industry など、想定される利用シーンを箇条書きで紹介。

## 4. Ecosystem & Integrations

- ・製品同士が同じ人格のAERISで連携する点を強調。
- ・UWBやNFC対応、Persona Sync、標準プロトコルとの相互運用を想定。

# 6-5. Devices

デバイスギャラリー+詳細プレビューをまとめたセクション。

- ・上部：ドローン、スマート鍵、ウェアラブル等のデバイスカードギャラリー。
- ・中央：
  - 「DEVICE PREVIEW」 「SELECT A PRODUCT ABOVE」などのメッセージ。
  - 何も選択していないときは、ホログラフィックコンソールが待機しているイメージ。
- ・下部：選択されたデバイスの詳細エリア。
  - デバイス名
  - コンセプトコピー
  - スペック（例：航続距離、積載量、騒音レベルなど）
  - Key Features（特徴）
  - Safety / Privacy に関する項目

企画書上の代表例（サンプル）：

【例：AERIS Drone “ORBIT”】

- ・役割：静音ライトで都市のラストワンマイル配送を再定義するドローン。
- ・主なスペック：
  - 航続距離：○○ km
  - 積載量：○○ kg
  - 騒音レベル：○○ dB 以下（夜間運用を想定）
- ・特徴：
  - AERISとの連携による予測航路とスケジュール配送
  - ジオフェンス機能による安全な飛行ルート制御
  - 暗号化されたフライトログ、衝突回避システム など

# 6-6. Company

L.U.X.E.のビジョンと拠点（本社ビル）、都市での体験、運用体制までをまとめるセクション。

4つのブロック想定：

## 1. Vision

- ・テーマ：「AIが当たり前の世界へ。」
- ・AERISを中心とした、生活空間・移動・オンライン体験をなめらかにつなぐビジョンを提示。
- ・本社ビルを「未来の都市の試作品」と位置づける。

## 2. Headquarters

- ・本社ビルを、オフィス兼実験空間として紹介。
- ・ガラスファサード、湾曲したフロア、シームレスなワークスペース等、建築と働き方の一体感を強調。
- ・館内の環境制御・セキュリティ・案内がAERISと連携し、ビル全体が一つのL.U.X.E.デバイスとして機能するイメージ。

## 3. Urban Experience

- ・L.U.X.E.のコンタクト、スマートロック、モビリティ連携デバイスが街中のあちこちで静かに稼働している風景。
- ・通勤、チェックイン、入退室管理といった一日の流れそのものをAERISが裏側でつなぐ。

## 4. Security & Operations

- ・AERISの検知と人の判断を組み合わせた24時間体制の監視運用。
- ・インフラ、ホームデバイス、クラウドのログを横断的に分析し、兆候段階でインシデントを抑える思想を説明。

※企画書では、会社紹介というより

「世界観の仕上げパート」として位置付ける。

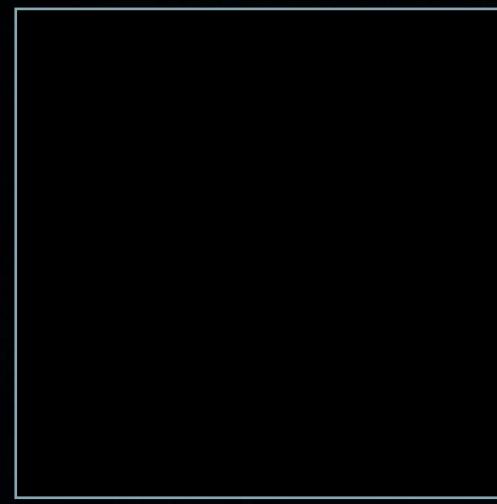
## 6-7. Contact

最終セクション。問い合わせ窓口をシンプルに提示。

- ・表示内容：メールアドレス等の連絡先のみを記載。
- ・フォームではなく、ミニマルな連絡手段として構成。

# 7. デザインコンセプト

カラー



ブラック



ネオンブルー

タイポグラフィ

Aa

イメージ



黒を基調に、ネオンブルーのアクセントを効かせ、  
ミニマルかつラグジュアリーなトーンを演出。

## 8. まとめ・今後の展望

AI×創造×デザインが導く、新たなブランド体験。

L.U.X.E.は、AI技術と創造力が融合することで誕生した、  
近未来の“体験型オリジナルブランド”である。

Webサイトを通してブランドの世界観を体感できる新たな価値を提案し、  
今後はAI生成技術の進化とともに、より深い没入体験を追求していく。

Devicesセクションに新デバイスを追加していくことで、  
「L.U.X.E.プロダクトラインのカタログ」としても機能させる。